

大聖寺十万石城下町 ～江戸時代の町絵図で歩ける町～ (加賀市)

白山信仰の中心地のひとつであった「大聖寺」を名前の由来に持つ大聖寺は、戦国時代には大聖寺城が築かれ、江戸時代には大聖寺藩の城下町として、庭園や長流亭（ちょうりゅうてい）を備える藩邸を中心に武家屋敷や町屋、寺院などが建ち並んでいた。

明治維新で大聖寺藩が消滅したあとも多くの歴史的建造物が残され、町割りもほぼ江戸時代のまま残っており、江戸時代の町絵図で街歩きを楽しむことができる。

また、能楽等の芸能・嗜みや伝統的猟法「坂網猟（さかあみりょう）」など大聖寺藩時代に生まれた伝統文化が現在にも息づいている。



えぬまじんじゃちょうりゅうてい
江沼神社長流亭



きゅうだいしょうじはんていえん
旧大聖寺藩邸庭園



じっしょういん
実性院



だいしょうじまちえず
大聖寺町絵図

いにしえの記憶をたどる道 ～倶利伽羅峠～ （津幡町）

倶利伽羅峠は、石川県と富山県境（加賀と越中の境）に位置する。峠に至る道には蝸牛坂（かたつむりざか）や一騎打ちとよばれる急峻な所も多く難所とされてきた。旅人は「手向きの神（たむけのかみ）」に祈りを捧げ、頂上の泉などで疲れを癒しながらこの道を越えていった。

また峠は軍事的にも重要であったため、ここを舞台とした戦いが幾度となく繰り広げられており、城や陣跡が点在している。

倶利伽羅峠を歩くことによって、いにしえの旅人と同じ目線でその歴史や、加越能の眺望を体感できる。



ほっこくかいどうくりからとうげみち
北国街道倶利伽羅峠道



りゅうがみねじょうあと
龍ヶ峰城跡



ちようらくじあと
長楽寺跡
（現・倶利伽羅山不動寺）



たむけじんじやせきどうしんでん
手向神社石堂神殿